

まごめ園

令和元年度事業報告

1. 運営方針

- ・ 地域社会に開かれた施設づくり
- ・ 自律した豊かな地域生活の基盤づくり
- ・ 社会参加活動の拡充

2. 職員等配置（実績）

職員 21 名（兼務 3 名、就労継続支援 B 型 7 名、生活介護 11 名）・非常勤職員 7 名（就労継続支援 B 型 4 名、生活介護 3 名）・嘱託医 2 名 合計 30 名

3. 今年度の重点目標に対する取り組み状況

法人重点推進事項		(1) 質の高い支援（虐待防止、権利擁護） (4) 既存事業の機能強化	回数・日付	人数
1	ライフステージに合わせた切れ目ない支援の提供	・ 生活介護、就労継続支援 B 型機能の相互活用		
		① 生活介護、就労継続支援 B 型両事業合同で園長・主任層会議を毎月実施。事業推進、利用者支援、職員研修、事業所課題等について共有・検討・推進。	12 回	
		② 両事業職員の相互体験を実施。	6 回各 3 日	12 名
		③ 朝夕礼での両事業情報共有	9 回各 5 日	18 名
		④ 手工芸新商品共同開発、受託作業の両事業共同受注実施。	毎日	
		・ 高齢化・重度化による多様なニーズへの対応の強化	通年	
		① 高齢利用者の送迎支援（生活介護、介護保険併給の方）	207 回	2 名
		② ペースに合わせたプログラム提供（運動機会の提供やバイタル測定、食前の口腔体操、選択活動の提供）	通年	
		・ 利用者の主体性を尊重した支援 利用者の理解に合わせた可視化ツールやワークシステムを活用し、自主的に過ごせる場面増に向けた取り組み実施。	通年	
		・ 生活介護利用者が体験を積む重ね、次年度より就労継続支援 B 型に移行。	1 月～3 月 実習	1 名

生活介護	年間作業売上金の分配	2,000 円	前年度 1,300 円	+700 円 (年度末に分配)
------	------------	---------	-------------	-----------------

※ 平均利用者数＝全利用者の年間延利用日数÷開所日数（小数点第2位以下切り上げ）。

※ 稼働率＝年間利用者延べ数÷（定員×開所日数）

※ 利用率＝年間利用者延べ数÷（在籍数×開所日数）

5. 年間行事（実績）

4 月	入所式(2 日)	
5 月		
6 月	合同防災訓練(2 日)、外出訓練(生活介護)	
7 月	外出訓練(就労継続支援 B 型)	↓
8 月	納涼会(利用者自治会企画)	
9 月	第 26 回まごめ幸陽祭(29 日)	
10 月	しょうがい者の日のつどい	宿泊訓練（就労継続支援 B 型）
11 月	宿泊訓練（生活介護）	
12 月	忘年会（自治会企画）	
1 月	古希を祝う会 外出訓練（生活介護）	
2 月		
3 月	納会（自治会企画）	

6. 地域公益活動の推進(実績)

	実施項目	具体的内容	回数・日付	人数
1	第 26 回まごめ幸陽祭の開催	<ul style="list-style-type: none"> 9/29（日）開催 地域町会、関係機関で組織した実行委員会形式で実施。近隣小中学校児童生徒による発表の機会提供、地域住民の交流の場とした。 	9/29（日）	来場者 約 1,000 名
2	地域への設備・物品貸出し	地域への物品の貸出 <ul style="list-style-type: none"> ホール貸出 馬込地区民生児童委員協議会 東京都認証保育所ココファン・ナーサリー馬込 中馬込貝塚町会 杵・臼セット NPO 法人まごめ共同保育所 太鼓・バチ 1 組 馬込大盆踊り大会 テント、コードリール、アンプセット 上池台障害者福祉会館 子ども食堂調理場として食堂貸出 馬込子まもり会 法人事業所の行事、研修等での物品貸出 	9/11 10/19 11. 12. 3 月 1/18 7/20. 21 10/23-30 10～1 月 3 回	

3	ボランティア受け入れ強化	・ 日常ボランティアの継続受入れ	243回	91名
4	中間的就労ボランティア受け入れ	・ はたらくサポートとうきょう「はたらく場登録情報」に継続登録しているが利用実績なし。	-	-

7. 地域・関係機関連携(実績)

	実施項目	具体的内容	回数・日付	人数
1	地域交流・連携	地域行事での会場設営協力・出展。 →馬込文士村大桜祭り、大田区子どもガーデンパーティ、洗足池春宵の響、登志子地蔵祭り、地域防災訓練、馬込大盆踊り大会、貝塚中学校地域防災拠点訓練、貝塚こども祭り、馬込八幡神社祭礼、雪谷文化センター祭り、馬込文化センター祭り 近隣小中学校等との交流推進 →幸陽祭、馬込第三小学校ダンスクラブ 近隣集合住宅共用部のボランティア清掃 馬込第三小学校 80 周年記念式典の記念品としてプリントクッキー3000 枚の受注あり。食品用プリンターを購入し対応。	11回 2回 6回 9月 ~11月	
2	福祉人材受入	社会福祉士 介護等体験 人事院 保育その他	8日 25日 15日 1日	1名 5名 3名 1名
3	広報活動等	広報紙発行 ホームページ更新 外販活動 掲示板を活用した地域情報発信	3回 7回 35回 通年	

8. 人材確保・育成とサービスの質向上の取り組み・研修(*事業所実績)

目的：ライフステージに合わせた質の高いサービス提供

	実施項目	具体的取組	回数・日付	人数
1	OJT・職場内研修	虐待防止・権利擁護に関する研修 法令遵守関係（就業規則・サービス提供ガイドライン等） 障害特性・支援技術に関する研修 防災・応急救護に関する研修 法人共通ガイドラインに沿った新任職員 OJT 実施。	3回 1回 7回 1回	28名 21名 21名 28名 2名

		『月間さぽーと』の抜粋共有による学びの機会。	毎月	
2	外部研修	<p>【東京都社会福祉協議会主催】</p> <p>利用者支援研究会幹事施設見学会及び試食会、キャリアパス対応障害研修課程初任者研修、強度行動障害アドバンス研修、第2回虐待防止・権利擁護研修</p> <p>【大田区障がい者総合サポートセンター主催】</p> <p>高齢障害者支援研修</p> <p>【公益社団法人総合健康推進財団主催】</p> <p>東京都サービス管理責任者更新研修</p> <p>【JDダウン症支援セミナー主催】</p> <p>ダウン症成人期の支援を考える</p> <p>【てんかん協会主催】</p> <p>てんかん基礎講座</p> <p>【一般社団法人東京都食品衛生協会主催】</p> <p>食品衛生責任者養成講習会</p> <p>【東京都保健福祉局主催】</p> <p>食品の適正表示推進者育成講習会</p> <p>【大田労働基準監督署主催】</p> <p>社会福祉施設労務・安全衛生講習会</p> <p>【公益財団法人 東京都福祉保健財団主催】</p> <p>強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）</p>	延べ13回	延べ15名
3	自己研鑽支援	<p>資格取得支援制度等の周知</p> <p>研修情報、参考図書閲覧の利便性向上→図書コーナーの整理。</p>	1回 通年	28名

*1 虐待防止研修（区、都主催）は落選のため次回募集時に再申込する。

9. 権利擁護・虐待防止の取り組み(実績)

	実施項目	具体的取組	回数・日付	人数
1	虐待防止	<p>事業所虐待防止・人権委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハット集計・分析からの注意喚起 虐待防止（身体拘束ゼロ）具体的支援検証・再検討 虐待防止チェックリスト実施→集計分析結果を職員会議で周知。 	4回 毎月 6月、9月、12月 9月	
2	権利擁護	「法人サービス利用者の権利擁護規程」「社会福祉法人大田幸陽会サービス提供ガイドライン」等を踏まえた支援の実践	通年	
3	苦情解決	<p>「苦情解決制度に関する要綱」に基づいて対応。</p> <p>*生活介護男性利用者自宅付近コンビニより、利用</p>	3件 4月	

		について苦情あり。関係者会議を開催し、移動支援との連携で対応中。 *生活介護送迎バスルート乗降ポイントについて匿名で苦情あり。大田区、バス委託会社と協議し、停車ポイントを変更。 *利用者健康診断時の補食対応について苦情あり。再度丁寧に説明し、ご理解いただく。	7月 8月	
4	個人情報保護	「個人情報保護規程」および「特定個人情報規程」に基づいて適切に対応	通年	

10、法令遵守に関する取り組み(実績)

	実施項目	具体的取組	回数・日付	人数
1	法令遵守	法令遵守推進に関する関係法令・条例・法人諸規程等に基づき対応 →就業規則・権利擁護規程・職員倫理規程・虐待防止対応要綱等の配布・確認指示や内容によって読み合わせの実施	3回	
2	「働きやすい職場」づくり	<ul style="list-style-type: none"> 働き方検討会の実施。業務改善に向けて継続検討。 「すてきなまごめ園キャンペーン」の継続実施を通して、4S活動、オアシス活動の常態化に向けた取り組みを実施。 朝礼での一言コーナーの継続実施。職員のアウトプット機会とする。 	3回 通年	

11、危機管理(実績)

	実施項目	具体的取組	回数・日付	人数
1	防災関連	定期防災訓練・福祉避難所開設検討会および訓練 地域防災訓練に利用者・職員参加	12回 1回	
2	緊急時対応	「緊急時対応マニュアル」により対応	通年	

*1 緊急時の連絡手段として災害時伝言ダイヤル(171、web171)を活用。NTT東日本の体験日に、職員・家族の操作体験訓練を継続実施。

12、その他

平成28年度 第三者評価受審結果よりさらなる改善が望まれる点への取組

タイトル1	ヒヤリ・ハット事例等の集計・分析結果を、マニュアル類の改正や職員の意識向上に役立てるなど、さらなる活用を期待したい
内容	リスク担当者会議を毎月開催し、ヒヤリ・ハット報告の月次集計をもとに検討実施。職員会議で結果周知し注意喚起。事業所虐待防止・人権委員会でも取り上げ事例検討の素材としている。

タイトル2	多機能型事業所の利点を活かし、事業間交流を活発にするなど、職員が担当事業でなくともスムーズに支援できるような取り組みが望まれる
内容	事業間ミーティングを毎月実施し、両事業の状況、課題、対応の方向性を共有している。(園長、副施設長、両事業サービス管理責任者、主任、副主任、状況により他職員参加) 係分掌業務の事業混合配置が定着。コミュニケーション機会が増加している。直接支援場面での両事業職員を入れ替えての引き継ぎローテーション実施(6～7月、週3回半日)。下期にも5日/回で実施。
タイトル3	貴重なセルフチェック集計結果が支援の向上に役立つよう、さらなる活用を望みたい。
内容	法人及び事業所虐待防止・人権委員会を中心に研修実施。 昨年度実施のキャンペーンを継続実施。

***1 令和元年度 第三者評価受審。(令和元年度第6回理事会報告第3号-1)**

タイトル1	利用者一人一人が力を発揮しうる環境を維持していく
内容	利用者のペースに合わせ、やりがいや達成感を得られるよう環境を維持していく。
タイトル2	地域との連携・地域への貢献を積み重ねていく
内容	連絡会や協議会等への参画や地域団体との連携、町会等への設備貸出など、今後も継続していく。
タイトル3	商品のあり方を検討していく
内容	工賃、作業奨励金の向上を目指し、商品の価格設定や商品の見せ方等検討していく。